

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「プレンティックラーニング」授業体験

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

特集1「進化する自学自習システム」

インタビュー 本学経済学部 尾島 完二 准教授



尾島 完二(こじま かんじ)

経済学部准教授。1994年名古屋市立大学院経済学研究科博士課程満期退学。担当科目「パソコン統計」「情報経済論」。名古屋学院大学講師を経て現職。主著「Webサイトの動向からみる自治体サービスの新展開」、「経済学基礎知識1000題による学部教育の標準化と質保証」(共著)他。

- 第1回 導入後の変化
- 第2回 新たな活用方法
- 第3回 今後の可能性について

第1回 導入後の変化

組織的な取り組みが浸透

自学自習システムそのものは2002年にスタートしました。最初はシステムだけを作り、そこに先生方が作った問題を載せ、うまく活用できるかどうか試してみるとどうやら実戦的な取り組みでした。その後、2004年に基礎科目を中心とした「経済学基礎知識1000題」がスタートし、2005年には経済学部の教材として完成しました。そして、2006年の特色GP選定から1年が過ぎた今年「経済学基礎知識1000題」の組織的な取り組みが強くなってきていることを実感しています。



「経済学基礎知識1000題」がスタートした当時は、経済学部の教壇会で「できれば定期試験で『経済学基礎知識1000題』から割くらいいを出題してください」とお願いして活用していただいていました。それが今では、先生方が独自の工夫を凝らして積極的に利用しているという声が、あちこちから聞えてくるようになりました。たとえば、本来5択式である「1000題」をアンケートで穴埋め問題として出題したり、本試験で惜しまも合格を逃がした学生に「1000題」で補習を行ったり、また「1000題」を解くことを、試験を受けるための前提条件とするなど、さまざまなバリエーションが生まれており、先生方が工夫しながら楽しんで活用されているという手応えを感じます。

学習意欲のある学生が増え、学力向上にも成果



先生方が積極的に「経済学基礎知識1000題」を活用することによって、学生が学習に利用する機会も増えてきています。利用する機会が多いということは勉強しているということですから、導入前よりも導入後のほうが学生の学習時間が確保されていますし、学力も確実に向上升していると思います。

学生たちは高校まで、受験勉強や定期試験といった反復練習中心の学習方法に慣れてきました。それが大学に入学したとん、これまでとはまったく違った90分の授業を10回受け、試験に臨むわけです。すぐに大学のシステムに馴染むことは難しいでしょうから、そういう点で「1000題」の活用法は今の学生に非常に適していると思います。学習する範囲を示し、実際に問題を取り組ませることで、彼らにとって、より学習し易くなっているのではないかでしょうか。また、ランキング機能が付いているというのも、学習意欲を高める効果を上げています。

このページのトップへ

第2回 新たな活用法

CCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)をベースにより優れた効果を発揮

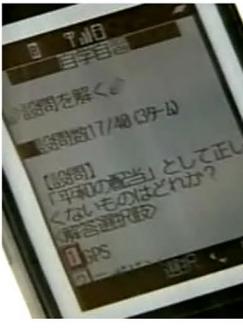


「経済学基礎知識1000題」の活用が広がっている大きな理由の一つに、学生と教職員を結ぶ教育ネットワークシステムCCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)に組み込まれていることが挙げられます。単に反復学習目的とするe-ラーニングだけであれば、さほど難しくはありません。ところが、本学の「1000題」の事務局が管理・整備しているデータベースとリンクしているという点で優れており、多彩な活用を可能にしているのです。

その好事例が、私たち教職員だけが見ることのできる教員画面です。教員画面には自分が担当するすべての科目に専用ページ(科目情報)が用意されています。CCSの科目情報にある、履修者名簿から学生一人ひとりの学習履歴や成績を確認することができます。ですから授業の出欠や試験の結果だけでなく、見えないところでの学生の努力も評価することができるのです。また、個別の連絡ごとに利用できるので、たとえば伸び悩んでいる学生には個別指導をしたり、学習のアドバイスをするなど、学生全体の学力の底上げにも役立っています。

携帯電話や携帯ゲーム機でも「経済学基礎知識1000題」を利用

今年の1月から、携帯電話でも「経済学基礎知識1000題」を利用できるようになりました。学生の中には、パソコンを立ち上げるのが面倒という声もあったんですね。家にインターネットがついていないで勉強できないという学生も。基本的に人間といつもはワイヤレスで面倒臭がり屋なんですね。たとえば1時間の待ち時間があったとしても「じゃあパソコンを立ち上げて勉強しよう」とはいられない。それで、もっと時間を有効に使う手段として携帯メニューを導入したんです。



また、任天堂DSやその他のインターネット接続できる携帯型ゲーム機で「1000題」が利用できることが分かりました。きっかけは、名古屋キャンパスの開設です。無線LANが導入されることを知っていましたので、遊びのつもりで試してみたら、CCSにアクセスできました。これなら教科ほどまでがんがんで携帯電話と同じように手軽ですし、しかも、パソコンと同様に一度に多くの問題を解くことができる。まさにゲーム感覚で手軽に楽しく勉強できるわけです。



このページのトップへ

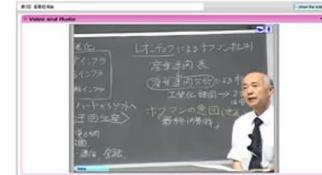
第3回 今後の可能性について

TIESとのコラボレーションや動画配信の準備に着手

奈良の帝塚山大学では「TIES」というe-ラーニング教育システムを開発・運用しています。高等教育関係者であれば誰でも無料で参加し利用することができます。それが大学に入学したとん、これまでとはまったく違った90分の授業を10回受け、試験に臨むわけです。すぐに大学のシステムに馴染むことは難しいでしょうから、そういう点で「1000題」の活用法は今の学生に非常に適していると思います。学習する範囲を示し、実際に問題を取り組ませることで、彼らにとって、より学習し易くなっているのではないかでしょうか。また、ランク機能が付いているというのも、学習意欲を高める効果を上げています。

「TIES」に関する情報は[こちら](http://www.cccties.org/)

大学生の質の保証をめざして



「経済学基礎知識1000題」を発展させた大きな構想としては、経済学のアーチャーメントテスト※を作りたいと思っています。現在でも経済学検定というのがありますが、学部学生にとっては難しく、活用しづらいレベルになっています。ですから、経済学部を卒業する学生として身につけておくべき専門基礎を範囲とする常識テストのようなものを作りたいと。これは本学だけでも実現できることではありません。同じように学生指導に熱心な大学や教員と一緒に作り上げる必要があります。この構想の実現はおに限らず、地域を越えてさまざまな大学と提携し、教育効果を高め、大学生の質を保証・向上させていきたいですね。

これから大学を受験する学生さんたちにも「名古屋学院大学はこんないい授業をやっていますよ。どうぞ、ネットから見てください。試してください。」と伝えられるよう、さらにシステムを整えていきたいです。

※アーチャーメントテスト = 学習した結果を客観的に判定するテスト、学力検査のこと

このページのトップへ

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- > 選定理由・これまでの取組
- > 教育効果を上げる工夫
- > 自学自習システムの活用
- > 自学自習システムの有効性と成果
- > 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「フレンティテラーニング」授業体験

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- > 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

特集2「政策学基礎知識1000題」

インタビュー 本学経済学部 宮崎 智視 講師



宮崎 智視(みやさきともみ)

経済学講師。2005年一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程応用経済専攻単位取得退学。博士(経済学)。2005年名古屋学院大学経済学部講師に着任。2007年度担当科目「財政学入門(2年次以上)」「地方財政論(3年次以上)」他。

第1回

第2回

第1回

「政策学基礎知識1000題」による反復学習が有効



政策学というのは「学際分野」です。学際分野とは、経済学や法学、政治学など2つ以上のさまざまな研究分野に亘り、いろいろな学問をいいます。ところで政策学といっても、各大学によってテーマが異なります。本学の経済学部がテーマとしているのは経済政策です。日本の経済は資本主義経済ですから、民間にできること民間に任せようという考え方方が基本となる経済体制です。しかし、所得格差の問題や環境問題など、民間だけでは解決できない経済問題はたくさんあります。そういった様々な経済問題を発見・認識し、それを解決するためには必要とする思考能力が政策的思考能力を修得するというのが、本学の「政策学」の目的です。

「政策的思考能力」を修得するには複合的に、かつ、易しい内容から難しい内容へと段階的に学んでいくことが必要です。問題を見たり解決策を探る前に、まずは日本経済の仕組みや法律、制度など、基本的な知識を身に付けなくてはなりません。それについては、しっかりと反復学習ができる「政策学基礎知識1000題」が大変有効だと思います。学生のみなさんが社会に出て、官公庁に就職をしない場合でも政策学が役立つ場面は多くあります。会社を経営する場合や、ビジネスの場で企画立案したりすることが、その例です。また、新聞を読むときにも内容を踏み込んで分析することができ、政治や経済に関する理解度が高まるでしょう。

政策学科の先生方による組織的な取り組み



「政策学基礎知識1000題」は、2007年の春学期の期末試験に合わせて6月から運用しています。政策学科向けのコンテンツを作るという話が出たのは、昨年の9月ごろでした。政策学科には、公務員特別コースや地域創生コースなどのコースを設けているという特色があります。そのため、法律を主に勉強したい、地域の問題を勉強したい、政策のことを真剣に考えてみたい、という学生が多くいます。政策学科の先生方から、そんな彼らのために既存の「経済学基礎知識1000題」を整備して政策学科のコンテンツを作ろうという声が上がり、取り組みが始まったのです。

まず最初に、政策学科の先生方12名全員が「政策学基礎知識1000題」の問題を作ってくださいました。先生方もそれぞれお忙しい中、いろいろな案を出し合い、協力あって1000題を完成し、公開・運用にたどり着いたのです。問題については、経済学の1000題と同様にカリキュラムとの対応をかなり意識して作っています。特に、日本経済入門、地域政策入門、社会政策は学生が一度は必ず受けなくてはならない科目ですので、そういう科目に関しては優先的に学習できるよう、問題を上から順に並べるといった配慮もしています。

具体的なコンテンツ

範囲	分野
政策基礎理論	ミクロ経済学・マクロ経済学
	財政・公共政策
	政策原理
個別政策の知識	日本経済入門
	地域政策
	社会政策・労働・福祉
	環境政策
法律	資源・エネルギー政策
	憲法
	民法
政治・行政制度	商法
	政治
政策科学	行政政策制度
	データの処理
	OR・意思決定論

このページのトップへ

第2回

公開2ヶ月で1000を超えるアクセス数



クリックで大きい画面を表示

私の講義での活用方法ですが、まずひとつは1000題の設問と対応する形で講義の資料を作り、自分の講義ノートに必ず加えうえで、学生にも「ここは1000題にもあるから復習してみてください」と反復学習を促します。また、期末試験では50%ほど1000題から出題しました。政策学の1000題は公開からまだ2ヶ月ほどしか過ぎていませんが、アクセス数を見ると財政分野では合計で1000を大きく超えています。財政公共政策が940、財政制度が742であり、このほか、環境政策も556など、わずか2ヶ月の間にかなりの学生が使ってくれています。

これまでの実感としては、反復学習をする学生が増え、そういう学生ほど試験の結果も良く、成果が表れている感じです。今後はさらにコンテンツの向上を図るために、PDCAサイクル(PLAN-DO-CHECK-ACTION)のCHECKの部分に力を注いでいきたいと考えています。まだ公開ばかりでないので、2年後、3年後の効果をチェックし、授業に活用したり、問題を難易度別に分けたり、記述問題にも対応させるなど、アクションを起こしていくければと思っています。

学校生活の中でも役立つ政策的思考能力

経済学基礎知識1000題とは違った「政策学基礎知識1000題」ならではの特徴というと、経済・法律・制度の科目を重点的に学べるようになっていくということです。これらは経済学の1000題では他の科目の中のひとつだったのですが、それを単独の分野として独立させたことで、たとえば資格試験を受ける学生には、基礎となる知識を確実に修得したい場合に役立つと思います。より目的を絞っての学習がしやすくなっているからです。



高校生のみなさんには、政策学というと難しそうなイメージがあるかもしれません。実は、みなさんの学校生活の中でも役立つことができる学問なんです。たとえば、部活動や生徒会活動などで問題を解決しなければならない場面や、目的を達成しなければならない場面がありますよね。野球の試合であれば、勝つという目的のために相手のピッチャーを分析したり、バッターに対する対策を考えたり。その際、問題の所在はどこで、またその解決のために、どうすればいいのかを探るために必要とされるのが、みなさんの身近なところにある「政策的思考能力」なんですね。まずは身のまわりで起きていることに目に向けることから、政策学に親しんでいってください。

このページのトップへ

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンデットラーニング」授業体験

教員VOICE

- ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

✉ お問い合わせ

特集3「ブレンデットラーニング」授業体験



- 第1回 ブレンデットラーニングとは?
- 第2回 授業体験「現代経済学」2008年6月20日(金)
- 第3回 インタビュー

第1回 ブレンデットラーニングとは?

対面教育とCCSが融合した新しいスタイルの授業をスタート



「教室での対面教育とeラーニングを組み合わせた学習方法」を一般に「ブレンデットラーニング」と言います。世間でもまだ馴染みの薄い学習形態で、学校や企業、ビジネスセミナーなどで具体的な活用方法が模索されています。そうした中、本学でも2008年4月から、対面授業とCCSを融合した独自の「ブレンデットラーニング」の試みが始まりました。

100人を超える学生がノートパソコン持参で授業に参加

「ブレンデットラーニング」を行っているのは、経済学部の児島完二教授です。児島先生の「ブレンデットラーニング」は、単に対面教育とeラーニングをブレンドしたスタイルというだけでなく「パソコンを使った“大人数”的”の授業」という大きな特徴があります。授業を受けるにあたってはノートパソコンを持参することが条件になっています。児島先生は「ブレンデットラーニング」の意義をこう語ります。

「ブレンデットラーニングではノートパソコンは必須ですが、必ずしもパソコンを使わなければならぬわけではありません。パソコンの調子が悪ければ携帯電話を使ってもいいですし、ノートを取っておいて後日課題を提出しても構わないのです。つまり、私のブレンデットラーニングの授業では、ただ教室に来て講義を聞いているだけではなく、受講者全員が授業に参加することに意義があるのです。」



児島先生が「ブレンデットラーニング」を実施しているのは、毎週金曜日の「現代経済学」の授業です。90分の授業時間は「自学自習」「復習と小テスト」「今日の講義」「今日の小テスト」という一連の流れで構成されているため、受講生がパソコンを操作するというひと手間があるものの、スムーズにテンポよく進められています。授業の中で必ずパソコンを使うのは「自学自習」と「小テスト」などの時間。「今日の講義」では筆記が中心となります。

「ブレンデットラーニング」の流れ



では、「ブレンデットラーニング」で実際どんな授業が行われているのか、6月20日(金)の『現代経済学』の講義を参考に、次回詳しくご紹介します。

Next >> 第2回 授業体験「現代経済学」2008年6月20日(金)

このページのトップへ

CONTENTS

特色GPとは?
学長・学部長あいさつ
経済学基礎知識1000題とは?
 > 選定理由・これまでの取組
 > 教育効果を上げる工夫
 > 自学自習システムの活用
 > 自学自習システムの有効性と成果
 > 学習の流れ 実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンデットラーニング」授業体験

教員VOICE

> 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

> 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

特集3「ブレンデットラーニング」授業体験

- 第1回 ブレンデットラーニングとは?
- 第2回 授業体験「現代経済学」2008年6月20日(金)
- 第3回 インタビュー

第2回 授業体験「現代経済学」2008年6月20日(金)

【1】ICカードとオンラインで出席を見る



授業使う教室は280人が入れる大教室です。受講生は、入室するとまずICカードの「フェリカ(学生ID)」を機械に読み取らせて出席登録します。このカードでの出席登録は、どんな授業でも必ず行っていることです。「ブレンデットラーニング」の授業では、このあともう一度、オンラインから出席登録します。

!ここがポイント

教授の管理画面からは、出席をリアルタイムに確認することができます。ICカードだけでは、読み取りが上手いかないこともあります。オンラインで出席登録することで、授業に参加しているかどうかをリアルタイムに確認でき、また、授業に参加していることを公正に評価できます。

【2】自学自習、授業の準備



授業の始めに、10分間ほど講義内容に関する自学自習を解く時間が設かれています。授業に関する連絡や大学の行事などのイベントがあるときは、そしたら案内をすることもあります。この日は、数日前に地元のニュース番組で放映された経済学部長による1年次生全員への面談の様子が、教室正面のプロジェクターに映し出されていました。

!ここがポイント

基本的には自学自習を解く時間ですが、パソコンが立ち上がりっていない人や、オンラインがつながっていない人の準備が整うまでの待ち時間も兼ねています。学習したり準備を整えたり、各自のペースで行動することができます。

【3】前回の授業の復習



次は、前回の授業の復習です。前回のテーマは「データを見る日本経済 GDP」。プロジェクト外には、前回の授業でも使ったスライドが映し出されました。児島先生がノートを出してくださりと受講生に声をかけます。ブレンデットラーニングの授業では、パソコンを使うだけでなく、筆記も必ずするので、前回書き写したノートを見ながら復習をします。前回休んだ人は、ここでノートを取りることができます。

!ここがポイント

授業使うスライドは児島先生がワープロで作成したものですが、これを資料として受講生に渡すことはせず、必要な箇所を書き写してもらわないとのこと。テストが終わったら人は今日の自学自習に取り組んでもよく、自分のペースで授業に参加することができます。制限時間の分が経過したところで、児島先生が平均点を公表されました(平均点90点)。

【4】前回の授業の小テスト



オンラインで小テストを受けます。出題は10問で制限時間は5分。本番のテストではないので、ノートを見ながら解いてもらわないとのこと。テストが終った人は今日の自学自習に取り組んでもよく、自分のペースで授業に参加することができます。制限時間の分が経過したところで、児島先生が平均点を公表されました(平均点90点)。

!ここがポイント

テスト終了後すぐに、受験者数や各自の点数、平均点などの結果がオンライン上で公表されます。受講生はそれを確認することで、自分の理解度を知ることができます。

【5】今日の授業開始、授業アンケートの提示



今日の授業のテーマは「データを見る日本経済 失業率」。プロジェクト外に映し出された最初のスライドには今日の「授業アンケート」が提示されており、受講生はそれをノートに書き写します。書くのを待っている間に、児島先生がこんなことを言いました。このブレンデット型の授業では、パソコンを使って頭の中に學び込めたまま同時に、書きながら覚えてもらいたないので、授業アンケート※や重点ポイントはしっかり書き写してください。パソコンを忘れたりパソコンの調子が悪かったり、ネットワークがうまくつながらない人は、授業が終わってからでも明日でもいいので、授業アンケートを提出してください。

※授業アンケートとは…その授業で最も重要な内容のひとつを受講生に問うもの。解答は記述式で200字くらいにまとめます。提出はODSを使ってオンラインから、提出期限は授業当日から10日後ぐらいまで。今回の授業アンケートは「日本の完全失業率がどのように推移してきたか」という問い合わせです。完全失業率が5%という危険水準だったのはいつごろで、どうくらい達したのかということを、自分の表現で端的にまとめます。

!ここがポイント

こうした授業アンケートを授業の冒頭で提示することで、受講生が関心を持って授業に臨むようになり、参加意欲を高めることが期待できます。

【6】グラフの作り方解説



受講生は1年次の実習でグラフを作るスキルを身につけています。それを踏まえて、児島先生が今日の授業に使った「完全失業率」のグラフの作り方を解説されました。グラフの作成を通して実際のデータの活用を学習することができ、実際の経済の動きを理解することとパソコンのスキルを高めることもできます。

!ここがポイント

グラフ作成の元となるデータは総務省統計局のホームページにあります。児島先生が加工したデータを「教材ダウンロード」から入手することもできます。こうしたところにもODSの機能が活用されています。

【7】今日の授業の小テスト



オンラインで小テストを受けます。出題は10問で制限時間は5分。最初の小テストと同様に、テスト終了後すぐに結果が公表されました。平均点は96点。ほとんどの人が100点といい結果でした。

!ここがポイント

小テストの制限時間は5分ですが、時間前に終わった場合は、自学自習を解いたり授業アンケートを提出するなど、別の学習をしててもかまいません。時間に有効に活用できるうえ、そのように積極的に学習に取り組む姿勢は評価の対象になります。

【8】電子アナライザで授業の理解度を評価



電子アナライザというシステムを使い、受講生が今日の授業の理解度を自己評価します。特別変わったことをするわけではなく、パソコンの画面に出る一つの評価項目のうちの1つを選んで回答するだけです。項目は「完全に理解」「よく理解」「なんか理解」「あまり理解できない」「まったく理解できない」という段階。受講生には、インセンティブとして提出点が与えられます。

!ここがポイント

電子アナライザのデータは、児島先生が授業内容や自学自習の見直しに役立てるほか、成績との相関を分析するなど、今後のさまざまな取り組みに活用されます。

【9】授業アンケートの提出



授業時間も終わりに近づいたころ、授業アンケートを入力できるようにしたこと電子掲示板の書き込みが伝えられました。今回の授業はこれを提出して終了です。最後に、児島先生が受講生にこんな話をされました。教室に座っているだけでは評価しません。みなさん一生懸命頑張ったことを評価しますので、自学自習システムの課題を解いたり、電子アナライザや授業アンケートに回答したり、すべて忘れずに参加してください。

!ここがポイント

電子掲示板というのは受講生専用の掲示板で、誰でも見ることができ、書き込むことができます。教員によって使い方はさまざまですが、児島先生の場合、授業への意見や自学自習の設問のミスを指摘してもらうツールとして活用されています。指摘の内容よりも、受講生が書き込んだという行動そのものを評価の対象としています。

パソコンを使って作業をしたり、ノートを取ったり、スライドを見ながら説明を聞いたり、まさに、さまざま要素が「ブレンデット」された授業でした。授業終了後、この授業の発案者である児島先生と、教室の前の席で熱心に授業を受けていた受講生にお話を伺いました。

Next >> 第3回 インタビュー

このページのトップへ

2006年度 文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に選定
「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンデッドラーニング」授業体験

教員VOICE

- ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

✉ お問い合わせ

特集3「ブレンデッドラーニング」授業体験



- 第1回 ブレンデッドラーニングとは ?
- 第2回 授業体験「現代経済学」2008年6月20日(金)
- 第3回 インタビュー

第3回 インタビュー

経済学部 児島完二 教授

-「ブレンデッドラーニング」をスタートしたきっかけは?



「学生は自分で勉強するもの」というのは昔の話です。手取り足取りとまでは言いませんが、今の時代は、学生が授業に参加する仕組みを提供していく必要があります。2002年に本学独自のOCSを作ったとき、ITを使ってそれができないか、と考えたのが最初のきっかけでした。でも、アイデアはあったものの、具体的な構想にまでは至りませんでした。当時は今ほどブロードバンドが浸透していませんでしたし、パソコンを苦手とする学生も多かったため、ちょっとできないな…。

「ブレンデッドラーニング」をやれる、と確信を持てるようになったのは、学生が自学自習を使いこなせるようになってからです。さらに、名古屋キャンパスに移転してIT環境が整ったことも、やれるという自信につながりました。授業アンケートや授業の理解度評価など、温めていたアイデアを一つひとつ授業に取り入れていきながら、現在の「ブレンデッドラーニング」

の授業のスタイルが完成しました。

-“大人数”にこだわるのはなぜですか?

経済学部や法学部、商学部、経営学部といった学部では、大きな教室で何百人という受講者を前に授業を展開しているからです。従来の対面授業では、学生が頻繁に出入りしたり、寝ていたり、来なかっただり、必ずしも授業が効率的に行われているとは言えない状況もありました。そんななかでITを上手く取り入れたらどう変わるだろう、という思いがあったので、パソコンを使った大人数の授業に挑戦しているのです。



-「ブレンデッドラーニング」の今後の展開は?

「ブレンデッドラーニング」の授業は、OCSの全メニューの集大成です。今年の4月から実施してきて“この方法でいいんだ”と確信しています。次の展開としては、私でなくとも、このような「ブレンデッドラーニング」がやれるということを実証できればと思っています。また、期末試験がありますので、ぜひ学習効果が向上していることを証明できるようにしたいですね。最終的には、現在OCSで集めている受講生の参加データを活用して、いい形で学生に返したいと考えています。

経済学部経済学科 3年 浅井理花さん

-「ブレンデッドラーニング」の授業を受けた感想は?



普通の講義です、先生が黒板に書いたことを書いて、その説明を聞くだけ終わってしまいます。でも「ブレンデッドラーニング」の授業では、書き写したり説明を聞くだけでなく、そうした作業のあいだに自学自習の問題を解いたりできるので、授業時間帯を有効に使って勉強することができるんです。また、自学自習と授業の内容がリンクしているので、疑問点などは授業中に解消することができます。

自学自習を解いて予習をして出席するよう心がけていますが、ときには忙しくてできないこともあります。でも、毎回授業の最初に自学自習を解く時間があるので、そのときに予習ができるので助かります。そのときに前回の授業の解説をもらえるのですが、必要なところだけ聞いてあとは自学自習に専念するというふうに、自分のペースで授業に参加できるのがいいですね。

-これまでのところどんな成果がありましたか?

勉強がしやすくなりました。自分が疑問に思ったことがすぐ解消されるので、復習にもとても役立っています。テスト勉強も、かなりやり易くなっていますね。毎回アップされている自学自習を解いて、分からぬところはメモし、その解説もメモするようにしています。8月1日には、この授業を受けるようになって初めてのテストがあるので、今の調子で頑張って勉強していきます。



2006年度 部門科学者 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に誕生
「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

CONTENTS

- 特色GPとは?
- 学長・部長長いあいさつ
- 経済学基礎知識1000題とは?
- 選定理由 -これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ、実際の画面を見よ!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブランチカラーニング」登場!

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

学生の利用方法・利用実績

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

自学自習システムの修正点

ゲスト機能の導入

ゲストアカウントを助動した。

携帯電話でもゲストアカウントでログインし、自学自習を解くことができる。

全科目・範囲の設問ダウンロード

選択した教員・部署の全科目・範囲をテキストデータとしてダウンロードできる。

デザイン変更

学生自学自習トップページデザイン

This screenshot shows the redesigned student self-study top page. It includes sections for 'Top Page', 'Quiz' (with a sample question), 'Ranking' (with a sample ranking table), and 'Book' (with a sample book icon). The layout is more organized and visually appealing.

学生の自学自習へのデザインを一新。楽しみながら学習ができるように、学習の進捗によって「明るい色調」にむかって「暗い色調」に変化していくアイコンを配置した。



全問正解した範囲数やターム終了した範囲数に対してアイコンが変化する。

設問ページデザイン

This screenshot shows the question page design. It displays a list of questions with their respective scores and correct answers. A navigation bar at the bottom allows users to switch between different sections like 'Top Page', 'Quiz', 'Ranking', and 'Book'.

解答結果ページデザイン

This screenshot shows the answer result page design. It provides a summary of the user's performance across different sections. A navigation bar at the bottom allows users to switch between different sections like 'Top Page', 'Quiz', 'Ranking', and 'Book'.

解説ページデザイン

This screenshot shows the explanatory page design. It provides a detailed breakdown of a specific question, including its content, correct answer, and various analysis metrics such as 'Average score' and 'Number of attempts'.

ランキングページデザイン

This screenshot shows the ranking page design. It displays a list of top scorers with their names, scores, and other relevant statistics. A navigation bar at the bottom allows users to switch between different sections like 'Top Page', 'Quiz', 'Ranking', and 'Book'.

ブック機能の構成変更

ブックを科目範囲の集合か各部門の集合体に構成変更。

科目範囲に関係なく、操作を自由に変更できる。

ブックの名前は管理者が自由に設定できる。

1つのブックを複数の分野に分けることも可能。

ブック構成



目標設定機能の導入

学生が目標設定モードで設問を解くことができる。

目標の正答率を設定すると、連携に応じて演出が変わる。

学生トップページ上部

右上の部分で、目標正答率を設定できる。

This screenshot shows the student top page with the goal setting feature. It includes a '目標を設定' (Set Goal) button and a '目標設定' (Goal Setting) section where users can input their target accuracy rates. A large orange arrow points from the goal setting section down to the '目標の設定' (Goal Setting) page below.

目標設定モード時の時間解くページ

進捗バーの下に演出アイコンを表示。

範囲を解いていくとヒコが右に進み、飾植えの植物が育っていく。

This screenshot shows the time-solving page during goal setting mode. It features a progress bar at the bottom with a decorative chick and plant element. A large orange arrow points from the goal setting section up to this page.

目標達成時の得点結果ページ

得点結果の上部に認定印を表示。

This screenshot shows the achievement point result page. It features a decorative border with flowers and a chick, and a prominent '認定' (Achievement) stamp in the center. The stamp includes text like '全問正解' (All questions correct) and 'よかったです' (Thank you).

検索機能の導入

認定の検索は、Googleのサイト検索のように行えるようになります。

キーワードを入力し、ヒットした設問の一覧を表示。

学生ページ検索機能

科目・範囲名もしくは問題・選択肢・解説のいずれかをチェックし、検索文字を入力。

This screenshot shows the student search function. It includes a search bar with placeholder text '問題名・範囲名・問題文・選択肢・解説' and a search results table titled '検索結果TOP5'.

学生ページ検索結果

検索文字は黄色で示される。

「設問を解くか、「この設問を含む科目範囲・ブックの一覧」を参照できる。

This screenshot shows the student search results page. It displays a list of search results with columns for '問題名' (Question Name), '回答数' (Number of Answers), and '正答率' (Accuracy Rate). A large orange arrow points from the search results table down to the '教員ページ検索機能' section below.

教員ページ検索機能

科目・範囲名もしくは問題・選択肢・解説のいずれかを チェックし、検索文字を入力。

This screenshot shows the teacher search function. It includes a search bar with placeholder text '問題名・範囲名・問題文・選択肢・解説' and a search results table titled '検索結果TOP5'.

教員ページ検索結果

検索文字は黄色で示される。

科目・範囲名で検索した場合は、ヒットした科目範囲の一覧が表示される。

This screenshot shows the teacher search results page. It displays a list of search results with columns for '問題名' (Question Name), '回答数' (Number of Answers), and '正答率' (Accuracy Rate). A large orange arrow points from the search results table down to the '2007年度 活動内容へ戻る' link at the bottom.